

# 松聾キャリア教育通信



第23号  
進路支援課

何かと行事が立て込み、ようやくひと段落ついたところで早や2学期も終わりです。この1年を振り返り、自分の課題を見つけて来年はさらに飛躍できるよう、目標を明確にして新しい年を迎えてほしいものです。

今回は、中学部と高等部で企画したキャリアガイド教室の実施状況等を掲載します。



## ☆ キャリアガイド1: NPO法人ほっとわっと すけっと工房(就労継続支援B型事業所) 職業指導員 伊藤彩貴さん(24年度高等部普通科卒業生) 10月16日実施



大学で福祉を学んで卒業した伊藤さんは、4月から松山市内の精神障がい者の通う福祉事業所に、職業指導員として勤めています。伊藤さんはもともとイラストレーターへの夢を抱きながら、その夢の実現が難しいと知った頃に、介護や保育実習をきっかけに福祉の道に携わろうと決心したそうです。

また、「大学生活を通して多くの人との関わりの中で学んだことを、今の職場でも人間関係を円滑に保てるよう生かしている。」との言葉は大変心に響くものでした。加えて、これからの進路を考える後輩へのメッセージも伝えていただきました。

## ☆ キャリアガイド2: 株式会社あわしま堂 製菓部門担当 大島信也さん(旧宇和聾学校卒業生) 11月6日実施



旧宇和聾学校の卒業生である大島信也さんをお招きして、あわしま堂での仕事の様子や、これまで苦労したこと等をお話しいただきました。食品関係の仕事だけに、生ガキを食べるのを控えたりと、感染症にかからないよう気を付けないといけない話に驚いた生徒もいました。職場の方々とのコミュニケーションも大島さんなりにいろいろと努力や工夫を重ねて上手くやっていることを知りました。

また、趣味であるバイクを通じて休日には聞こえる方とのツーリングを楽しむなどしており、仕事と趣味のオンオフを上手に切り替えながら過ごす大島さんの姿から、生徒たちは大切な何かを感じ取ったことでしょう。

中学部3年の東さんは、大きな会社で働くことの厳しさを知り、将来の自分を見据え、今やらなければならないことを考える良い機会になったとの感想でした。これからも一つ一つ目の前の課題にしっかり向き合って頑張ってください。



## ☆ キャリアガイド3: 日本福祉大学社会福祉学部4年 神野華奈さん(25年度高等部普通科卒業生) 11月27日実施



愛知県の日本福祉大学に通う4回生の神野さんは、卒業論文を仕上げてひと段落ついたところを、遠いのになわざわざ母校の在校生のために来ていただきました。名古屋での就職が決まっている彼女ですが、これまでのアルバイトやボランティアで学んだことをぜひ生かして頑張りたいというお話しがありました。あらゆる人との出会いを通して、自分の聞こえない障がいを上手く伝えることの難しさを感じ、生徒たちには、どんな状況でも自分のことを理解してもらえるように努めてほしいとのアドバイスをいただきました。

☆ **キャリアガイド4:社会福祉法人 松山共生会 ポップ苑**  
管理者 **渡邊大吾さん** 12月6日実施



本校の近くにある就労継続支援B型事業所のポップ苑の代表の方をお招きし、中高等部のB組の生徒を対象に話をいただきました。ポップ苑での一日の作業の流れや、地域の方々との触れ合い活動の様子など紹介いただき、その後、実際に利用者の方々がしているお菓子の箱折り作業を体験しました。

小学部の児童も参加し、体験作業には意欲的でした。最初は難しかったですが、手順を理解すると皆、スムーズにできるようになりました。

最後に渡邊さんから、働くためには「規則正しい生活習慣を身に付けること」「自分で健康管理がきちんとできること」「時間やルールをしっかり守ること」が大切だということをお話いただきました。



《小学部5年 兵頭さんの感想文より》

聾学校を卒業したら仕事をしないといけません。箱を折るのは難しかったです。ふたを折るのは簡単だと思いました。ポップ苑の行事があるときは行ってみたいです。ひよこせんべいを作っている様子を見てすごかったです。いろいろ教えてくださって、ありがとうございました。

☆ **第2回キャリア教育推進連絡協議会を実施しました**

11月27日(月)に2回目のキャリア教育推進連絡協議会を開催しました。外部関係機関の方々には、神野華奈さんを講師に招いたキャリアガイド教室を参観いただきました。授業の後、「なぜ、そのように前向きになれるのか。そのエネルギーはどこから来るのか。」と関係者の方から質問がありました。卒業生の生き生きとした口調、表情がとても印象的だったようです。

今回は紙幅の都合上、関係機関の方々よりいただいた助言の一部を掲載させていただきます。

- ・ 有休は基本的にどこでも認められるが、状況に応じて取るが必要になる場合もあるので、このあたりの適切な判断ができる力を。
- ・ 普段の生活においても、例えば単独での通院に慣れたり、困った時には手話通訳派遣を自分からお願いするなどできるように。
- ・ 対話上、分からない時は、自分から進んできちんと分かってもらう努力を。



**ついにやりました!! 山田美里さん、金賞受賞おめでとう!!**  
～アビリンピック(全国障害者技能競技大会)～



去る11月17日から19日まで栃木県で行われたアビリンピック(全国障害者技能競技大会)において、昨年度に引き続き出場した本校卒業生の山田美里さんが、洋裁種目で見事に金賞を受賞しました。ちょうど一年前に銀賞を受賞しながら、彼女は周囲の賞賛をよそに、金賞まであと一歩及ばずという相当の悔しさが残っていたようです。そんな山田さんは、今回こそはと、リベンジを掛けて臨みました。毎日今治から松山の職場までの自家用車通勤にも関わらず、出場間際まで家庭科教諭の石田先生と洋裁マイスターの長谷部氏の指導を仰ぎながら懸命に努力を重ねてきました。

自分が一度やると決めたことは、決して最後まであきらめずに取り組む先輩の素晴らしい姿勢を、在校生の皆さんも是非見習ってほしいものです。

今後のさらなる山田さんの活躍をお祈りしています。本当に、おめでとうございます。

